

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 3 号)

1 平成5年3月11日(木曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	10番 庄司二三男
11番 山崎 雅己	12番 岩村 勝弘
13番 榎本 春光	14番 小宮 利夫
15番 山中金治郎	16番 鈴木 勝美
17番 鈴木 忠夫	19番 川名 正二
21番 神田 守隆	23番 石井 昌治
25番 流山源次郎	26番 辻田 実
27番 横溝 功	28番 飯田 義男

1 欠席議員 3名

18番 日下 君敏	20番 生稻 陸
22番 福原 勤	

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総務部長 斉藤 賢司	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 小沼 晃	建設部長 伊東 衛
水道課長 鈴木 信一	教育委員会 高橋 博夫 教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一	事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 松浮 郁夏	

1 議事日程（第3号）

平成5年3月11日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎副議長（川名正二君） 本日の出席議員数24名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎副議長（川名正二君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法は昨日と同じであります。

これより発言を願います。

7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） おはようございます。私は、既に通告をしてございます5点につきまして、御質問を申し上げます。

今回の御質問は、3月定例議会の庄司市長の施政方針を受けまして、平成5年度の動き出してくる各事業の中から、幾つか今後に向けてどう進めていこうとしていらっしゃるのかを中心に、次の5点につきまして御質問を申し上げます。

まず、第1点目でございますが、いよいよ集団リハビリ事業の開始をしようということでございますが、事業の中身につきまして具体的にお伺いをいたします。昨年12月議会におきまして、寝たきりの人をつくらないための、寝たきりにさせないような事業をやっていただきたいと御質問を申し上げました。御答弁によりますと、平成5年度より事業化に向けていくとのことでした。その後、担当課によりまして、各対象者の方々に説明または申し込みの手続などの対応をされているようでございます。市が今回行おう

としている集団リハビリは、楽しみにしていらっしゃる方が大変多いと聞いております。対象の方には、参加をし続けられるようなケアもきちんとしていただけるように、利用しやすい状況をつくっていただきたいと思います。

そこで、お尋ねをいたしますが、集団リハビリテーション事業の趣旨をお聞かせ願いたいと思います。また、どういう方を対象となされていくのか、リハビリの内容も計画をされていると思いますので、具体的にお聞かせをいただきたいと思います。

次に、2点目でございます。ことしの1月に、館山市老人保健福祉計画の計画策定のために必要不可欠になる、高齢者ニーズ調査が行われました。行政区の担当職員の方、また民生委員の方には、大変なお骨折りをお願いしたわけでございます。当初の予定よりも、実際に調査作業に入られたのは、少々日にちがずれたようではありますが、調査はどの程度の期間で行われたのでしょうか。また、回収率はいかがだったのでしょうか、お伺いをします。現在は、回収後の集計作業を行っているということでございますが、本年度中にこの集計作業を終了をし、来年度からいよいよ調査内容の分析をしながら、作成委員会や懇談会の中で、十分な討議をされていくことになると思われますが、いつごろからこの作業に入れるのか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、3点目でございますが、青柳―大賀線の現状と今後についてお伺いをいたします。館山―白浜線バイパスに接続を予定されております青柳―大賀線ですが、現在までに関係区民はもとより、地権者との話し合いも済ませたと聞いております。5年度より、より具体化をしてくるものと思われませんが、現在までの状況をお聞かせ願いたいと思います。館山―白浜線バイパスや青柳―大賀線、また館山―大貫―千倉線と、将来にはこの3つの道路が接続をし合うというようなことになるのだらうとは思いますが、交通の便がよくなることは大変よいのですが、この3つの道路が完成するためには、かなりの田んぼや畑が犠牲になるわけでございます。跡継ぎがいなくて、仕方なく用地買収に応じたと話された方もいらっしゃいました。そういったことも考えますと、複雑な思いもいたします。地権者との話し合いも済ませた今、

とりあえず計画をされている場所はどうか、現状も含めてお伺いをいたします。

次に、第4点目でございます。南房総広域水道計画についてお尋ねをいたします。この事業計画は、県南の17市町村を対象とした広域水道事業ということであり、館山市におきましては館野、九重地区の未給水区域の解消、また特に夏場の慢性的な水不足を解消するためにも、力を入れている事業の1つであるかと思えます。私は、この事業の進みぐあいなど、また計画の概要などもお尋ねをいたしますが、今回水質の問題についてもお尋ねをしていきたいと思えます。この水道事業ですが、水源は利根川からということでございますが、利根川の水質については、水の汚染が進んでいる状況で、家庭で飲み水として大変危険だという市民運動も展開されたと聞いております。また、利根川から佐倉のダムで浄化をされた水が栗山川を通りますが、栗山川の水の汚染も指摘をされております。こういった運動に対して、県の企画部水道課は、水道の水質は国の基準内に抑えているので、心配はないということをお聞きしております。水道法が1957年に施行され、1978年に26項目の水質基準が設けられて以来、14年ぶりに昨年の12月に厚生省が水道水質の一層の安全性ということで、安全でおいしい水をとという観点から、水質基準の大幅見直しをいたしました。厚生省は、今回の見直しに伴い、水質検査体制の整備、充実や高度浄化施設の整備など、水道水源の保全に積極的に努めるとしております。しかし、一方では26項目の基準項目から46項目にふやした水質基準検査をするためには精密な機械が必要で、今回の国の予算には措置がしていないなど、大幅な見直しをしたにもかかわらず、現実には検査も今までどおりにやるしかないという状況にあるということです。人間として、だれでも安全でおいしい水を飲みたいと思うのは当然のことであります。南房総広域水道計画の水源でもある利根川の水が、安全性について不安を持たれていることを、市としてはどのようにお考えになっているか、事業の概要とあわせてお尋ねをいたします。

次に、5点目でございます。教員の代替の配置や転任に際しての指導はどう行われているのかお尋ねをいたします。この問題につきましては、以前に

お伺いをした経緯がございますが、その後どう改善をされているのか。また、教育長さんもおかわりになりました。高橋教育長に、考え方なども含めまして、お伺いをいたしたいと思います。教員の方々の日常勤務は、大変忙しい状況にあるとよくお聞きをいたします。ぐあいが悪くて、休みたくても休めない状況であるということでございます。周りの同僚に、自分が休んだためにかかる負担を考えると、非常に休みにくいということでもあります。また、最近教員の研修が多く、研修に行かなければならないときは、負担をかける同僚に気兼ねをしながら研修に行かなければならないなど、病気になってしまっても、研修に行っても気兼ねなく休めたりできるよう、代替教員の配置をきちんと行っていけるようできないものか、現在どう対応をされているのか、教育長さんのお考えもあわせてお聞かせ願いたいと思います。

今の時期は、教員にとりまして、転任問題が取りざたされる時期でもあります。転任に際しては、本人の希望を十分配慮するようにとの県教育委員会の指導があると思いますが、現在県教育委員会の指導どおりに行われているのかどうかもお尋ねをいたします。現状とあわせてお考えなどもお聞かせいただきたいと思います。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎副議長（川名正二君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、集団リハビリの開始に当たりどのように進めていくのかとの御質問でございますが、対象者は、病院での医療リハビリを終えた在宅の方、そして脳卒中後遺症などで心身の機能が低下し、寝たきりになるおそれのある方でございます。内容につきましては、健康状態の観察、共同作業、レクリエーション等、社会的機能訓練を中心としたものでございます。

次に、大きな第2、1月中に実施いたしました高齢者ニーズ調査、この結果につきましては御質問でございます。回収件数につきましては、要介護老人の調査件数 114件に対しましては 100%の回収率でございます。また、一般高齢者の調査件数 2,000件に対しましては 1,931件、96%の回収率でござ

います。内容につきましては、現在集計中でございます。

次に、作成懇談会及び作成委員会の今後の活動につきましては、集計の結果を踏まえ、老人保健福祉計画の作成にかかわる御意見を伺い、取りまとめている予定でございます。

次に、大きな第3、青柳―大賀線の現状は。また、今後はどうかとの御質問でございますが、第1期の事業区間といたしまして、館山―白浜線バイパス交差部を起点といたしまして、県道館山―長尾線まで延長380メートル、幅員18メートルを建設するものでございます。平成3年度に地元説明会を開催し、地権者の方々の御協力をいただき、約20%の用地取得が完了したところでございます。

なお、本区間は、館山―白浜線バイパスの完成に合わせ供用できるよう、事業の促進を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、南房総広域水道計画に関連いたします御質問でございますが、南房総広域水道企業団では、大多喜町内に浄水場の建設と、この浄水場から安房、夷隅郡市の各水道事業体に浄水を送る送水管の布設が主な事業でございます。この平成4年度末まで、全体の50.8%を布設いたしますが、館山市内では5,453メートルの施工を完了しております。受水地点につきましては、館山市出野尾地先に配水場を建設いたします。

水質についての御質問でございますが、南房総広域水道の原水は、長柄ダムから大多喜ダムに導かれまして、そこから浄水場へ取水されます。現在取水し、給水しております九十九里地域等の水道事業体では、水質上特に問題なく、厚生省の定める水質基準を満たしておりますので、南房総広域水道企業団からの用水も問題ないと考えております。

次に、大きな第5、教育にかかわる問題につきましては、教育長より答弁いたします。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな5番の教員の代替の配置や転任に際しての指導はどう行われているかという御質問でございます。教員の代替の配置や転任に際しての指導についての質問で、まず代替教員の配置は千葉県教育委員会の所管であります、産前産後休暇、育児休業休暇、長期の病気休暇等につきましては、十分配慮して行われていると認識しております。

次に、転任に際しての指導についてでございますが、人事権は千葉県教育委員会にございまして、その異動方針に基づき適正に行われていると認識しております。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 再質問させていただきます。

まず、1番目の集団リハビリ事業のことなのですけれども、このリハビリを開始するに当たっては、新しい事業ですので、手探りで行わなければならないような状況なのかなというふうに思いますが、この集団リハビリに対応してくださる、例えば職員の方は、だれがどの程度の人数で対応をされようとしているのか。また、これは今、対象者の方々から申し込みを受けてからでないと、正確な人数というのは出てこないのでしょうかけれども、大体どの程度の人数の方をこのリハビリ事業の中で進めていこうとしているのかも、あわせてお答えをお願いします。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 平成5年度に新しく集団リハビリ事業を行うわけでございます。ただいまの御質問のどのような体制で、どれぐらいのいわゆる対象者、予定者を見込んでいるかということでございますけれども、まず体制の問題でございますけれども、役所の体制としては、現在の保健課の現状の人数、保健婦、栄養士、職員等で行っていきたいと。あと医師でございますけれども、これは千葉リハビリセンターから医師、それと理学療養士、作業療養士、そういう方々をお願いしたいというふうに考えております。それと、実際にお手伝いをしてもらうといいますか、作業訓練協力者ということで、これは保健推進員の方々、それからボランティアの方々、そういう方

々をお願いする予定になっております。それから、対象者でございますけれども、保健課の保健婦の方々が、在宅の対象者を昨年、前回調査してございます。その対象者が、約90名ぐらいの数になっておりますが、現在さらにその方々の状況、この事業に参加できるかどうか、そういう調査をしておるわけでございます。これにはホームドクター、いわゆるお医者さんにかかっている方については、主治医の意見書、そういうものをもって、これに参加できるかどうか、適否をお医者さんからいただくことになっております。そういうようなことで、当初としては大体対象者を40名程度、それを20名ぐらいのグループに分けて、月1回ぐらいを当初は行っていききたいというような経過でございます。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 今お話が出ました中に、現在うちなんかもこれは対象になるわけですけれども、先般主治医の方にこれは書いてもらわなければいけないということで、病院に行きましたところ、非常にこの書類の提出が多くて、先生が忙しくてかなわぬといった話も、そのときちょっと聞いたわけなんですけれども、それだけ皆さんが楽しみにして、希望を持っていられるということになるのかなというふうに思ったわけでございます。

それで、これからスタートするので、初めての事業ですから、徐々にやっていこうということだとは思いますが、今現在考えているこのリハビリのペース、例えば何週間に1回であるとか、月に1回であるとか、そういったことも計画をされていらっしゃるのでしょうかと思いますので、その辺のことをお聞かせを願いたいと思います。

それと、集団リハビリで約20名ぐらいのグループで分けてとおっしゃると、相当場所的な問題もありますので、今どこの場所でこれを行おうとしているのかもあわせて伺います。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、場所でございますけれども、保健センター、その集団指導室で予定しております。それから、当面スタートの時点

では月1回というようなことでございますけれども、それはあくまでも40人対象で、20人ずつのグループに分けるというようなことで年間計画を立てております。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ということは、40人対象でということは、実際に保健課の職員の方々が当たるのは、月に2回になるということなののでしょうか。それとも、グループごとに2回に分けて行おうとしているのかどうなのか、ちょっとお聞かせください。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この事業に当たりまして、年間の計画をつくっているわけでございますけれども、7月からスタートいたしまして3月までということで、7月は7月15日、8月が8月の10日と26日、9月が7日と21日、10月が21日、11月が9日と16日、12月が7日と14日、1月が20日、2月が8日と22日、3月が17日と、こういうような具体的な計画を立ててスタートをしたいということでございます。ただ、これにつきましてもいろいろ医師の都合とか、そういうもので若干の誤差は出るのではないかなという感じはありますけれども、現在のところはこれで進めていきたいということでございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） よくわかりました。

私自身ちょっとまだ不安に思っていることが1つ、2つあるのですが、例えば現在いる保健課の職員の方で当たるということだと、本来の仕事に差しさわりが出てこないかということが1つ。

それと、現在の保健課のコミュニティセンター内にあるわけですから、あそこの場所に行くのに、在宅で寝たきりにさせない程度の方ということになると、やっぱりそれなりの補助をして、送迎なりしていかなければならない人も多分多くいると思うのですけれども、その辺のケアというのはどういふふうになっているのですか。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、いわゆる送迎の関係でございますけれども、現在のところ送迎は原則として市で行うというふうに考えております。これにつきましては、今年度国の事業の補助をいただきまして、新しくリフトカーを1台購入いたしますと同時に、市のマイクロバスとか、友愛号とか、ライトバンとか、そういうような車両をもちまして、市で原則的には行いたいというふうに考えております。ただ、御家族が連れてきたいという方につきましては、ぜひそのような御協力をいただきたいというふうに考えております。

それから、保健課の現在の業務に支障が来るのではないかというような御指摘でございますけれども、4月から始まります総合健診、そういうものを避けまして、7月から行くと。これにつきましては、保健課の保健婦を中心として、現在のままでやっていこうと強い熱意がございますので、平常業務は支障がないというふうに判断しております。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私自身も、現在の保健課の方々の熱意というのは、本当によくわかります。それで、ここまでこの事業を進めてくださったということについては、本当に敬意を表し、それなりの評価をしておるのでございますけれども、熱意があっても人間生身の体ですから、その辺のことはきちんと、だんだんこの事業も機動に乗ってくれば、もう少し回数をということも恐らく出てくることではないかと思われるので、その辺のケアというのも、また徐々に考えていっていただきたいというふうにお願いをしておきます。これからのこの事業が、どういうふうに進められていくのかということについては、私自身もしっかりと見ていきたいと思っておりますが、これから先いろんな問題が出てくるということはある得ますので、その折にはまた質問をさせていただきたいというふうに思います。

集団リハビリに参加をする方はもちろんですが、いつも介護されている方、また参加者の家族の方、こういった方々がこのリハビリに参加というか、そ

の場所に一緒に参加をするということが、本当にこの事業は見られる方も、見る方もお互いに考え合うといえますか、いい機会であるというふうに思いますので、みんなが考え合えるような、そういった事業が行われるように望んでおります。1点目は以上でございます。

次に、2点目に移りますけれども、高齢者のニーズ調査の結果なのですが、現在も、現在は本当に今集計中であるということで、具体的なことはまだこれからということになるのだろーと思っておりますのですが、今回のこの調査で私などは、最後のページに要望欄を書き込む欄が設けてありまして、正直申し上げて本当にこの要望欄に書き込めないぐらい、紙をまた張って書いてみようかなと思ったくらいありました。その中で、私自身もいろんな人に意見を聞きましたけれども、その中から出された意見がありまして、あの要望欄は私は書けなかったという意見もあったわけです。あら、なぜですかと言いましたらば、この欄に私の要望なり、書きたいことここに書いたら、だれが書いたかわかってしまうと、怖くて書けないよというような意見をお持ちの方もいらっしゃったという現実があります。プライバシーについては、市としても十分配慮をしたということではあると思うのですが、一方で不安を持っている方もいるわけですので、こういう人たちとどう今後対応していかなければいけないのか、本当にこれは課題だと思うのです。要望など書けなかった人たちがいるというこの現実をどうお考えになるかお聞かせください。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 一般、そして要介護老人の調査ともども、最後の欄に行政に対する要望という欄があるわけでございますけれども、この調査をいたす段階で、館山市の独自の方法で行ったわけでございます。それは、基本的にはこの調査が市民のための、平成11年、紀元2000年の当初の我が市の在宅ケア、施設ケアの根本の柱になるのだというような重要な認識から、館山市では独自の調査をしたわけでございます。いわゆる行政区の中で、担当者の中で一般、それと児童民生委員の中で要介護調査ということをやったわけでございますが、その際両調査ともに調査要綱をつくりまして、調査員

についての心得を皆さんに周知徹底したわけでございます。いわゆる無記名だから、そういうプライバシーは十分注意するようにと、秘密を守ること、それから協力を求めること、そういうようなことを十分にいたしたわけでございますけれども、ただいま御指摘のとおり状況があるということについては大変、これは無記名でございますので、それを市の方でまた集計の際に詮索するという方法もないわけでございますけれども、我々としてはそこまではちょっと想定ができなかったと、そういう状況ではないのではないかと、ベストの調査方法を用いたわけだというような考え方を現在持っているわけでございます。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これは、ここの館山だけではなくて、ほかの自治体でもそうなのですけれども、このプライバシー問題というのは、本当に壁になってしまっているわけなのです。これをどう打破していくのかというのが、本当に課題になるのですけれども、正直申し上げて、私も言われても、あらあなたが書かなかったら、意見があったらちゃんと書かなければ、よくならないのだよという言い方しかできなかったのですけれども、やはりその壁が取り除かれるように、お互いにこれから先、考え合わせていかなければいけないのかなというふうに思っております。

作成委員会と懇談会が、分析などの実際の討議に入るわけなのですけれども、私自身が考えますに、現在寝たきりの人たちや介護している年代も、恐らく私たちの年代になるのだろーと思っておりますけれども、この老人保健福祉計画ができ上がって、本当の意味でのスタートを、きちっとした形でのスタート、始動するのは、実は私たちの年代からなのです。私自身考えますに、この調査もそうなのですけれども、私たちの年代の人たちを対象とした意見の取り入れというのでしょうか、そういったこともしなければならなかったというふうに思います。ただ、これからまだ十分分析とかしていくわけですから、まだこれからもできることですから、その中で今作成委員会、懇談会、組織ありますけれども、またこの違った意味の40代、50代前半ですか、そう

いった方々を対象とした意見を聞く場を絡めていこうというおつもりはないかどうかお伺いをします。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） これからの保健福祉計画を策定する場合のそういう市民の意見の反映ということでございますけれども、御承知のとおり館山市ではいわゆる各層の該当の代表ということで、18名の懇談会をつくっていただいたわけでございます。既に1回会議を持ちましたし、また先進地視察、三浦市を先月行ったわけでございますけれども、今後会長が必要に応じて、この懇談会を開催するという規約になっておりますので、その中で市民1人1人の関心があれば、そういうところで討議をしていただき、議論していただいて、よりよい計画をつくっていききたいと基本的には考えております。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 今の御発言の中で、関心があればということでしたのですけれども、私は関心があればということではなくて、関心を持たせるようにしなければいけないと思うのです。だから、そういうふうにするために、担当課の方はもちろんなのですけれども、本当に親身に努力はなさっているのですけれども、そういった方向で行政サイドが問題提起をしていくと。待ちの姿勢ではなくて、問題提起をしていくという姿勢でやっていただきたいというふうに思います。それで、この問題はまだ分析結果が出て、それからいろんな討議がされていくのでしょうから、その折にまた御質問なりさせていただきますまして、また見守っていききたいというふうに思います。

3番目の青柳―大賀線の問題なのですけれども、多分計画がされている場所は、青柳の引田団地西側を、大体館山―白浜バイパスが通る予定となっているわけですから、大体青柳―大賀線の起点はあの辺になるのかなと、今ある田んぼの真ん中あたりになるのかなというふうなことを思うわけですが、以前にこれ私も要望いたしましたけれども、大体そこいら辺の地域は、地盤が池田団地に向かって非常に低くなってきておりまして、池田団地の長須賀、青柳の境の下水路ですか、あの整備はしていただきまして、大変立派なものができたのですけれども、水はけが悪い状況というのが、まだ若干場所が残

っているということもありますので、この青柳一大賀線の道路を進めていくについては、そこいら辺の整備なども一緒にやっていく計画はできるかどうか、お聞かせください。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、館白バイパスがこれにあわせてできるわけでございますけれども、今までは南条であるとか、大綱の水がみんなそこら辺に来てしまっておるわけですが、館白バイパスができることによって、上流の水がそこでガードできるという。そうしますと、その下の水の対策でございますので、これは容易だということで、もちろんこの大賀線については、当然そこら辺の周辺の水についても、対策についても考えております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） よくわかりました。

先ほども申しましたけれども、この道路は交通網整備のためとはいえ、多くの農民の汗を流して働いてきた田んぼや畑をつぶしてつくろうということの計画なのですけれども、その人たちの思いを忘れることなく、きちんとした整備をしていってほしいというふうにお願いをしておきます。

次に、南房総広域水道計画なのですけれども、今回私は水質の問題につきまして中心にお伺いをしているわけでございますけれども、今多くの家庭で、水道の蛇口のところに家庭用の浄化装置ですか、つける家庭が非常に多くなっておりまして、私自身もうちでつけているわけなのですけれども、やっぱりそういうこと、人間だれでもおいしい水を飲みたいという発想のあらわれだというふうに思うのですけれども、ただこの家庭用の浄水器は、ちょっと難点がありまして、大体フィルターを約3カ月で交換しないと、かえって菌の培養状態をつくってしまうというようなことで、かえって危険な水を飲まざるを得ないような、そんな状況があるのですけれども、こういったにおいのしないような方法で、各家庭では沸騰させて飲んでいるとか、そういった状況で日々生活をしていると思うのですけれども、やっぱり確かに水質の問

題については、国の基準ですから、国の決めたことでやっていかなければならないのですけれども、私たちがやっぱりおいしくて安全な水を飲むために、県や国に対して基準をもっと上げてくださいというような意見は言っているわけですから、その辺のことをお願いをしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

◎副議長（川名正二君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 御指摘の水道水に関する水質の問題でございますが、今回生活環境審議会の答申を受けまして、省令の改正がされるわけございまして、その目的が水道水に対する国民のニーズが多様化されてきたと。より質の高い水道水の供給が求められております。このために、今回の時代の要請といたしますか、そういったものを受けて、省令の改正をされるわけございまして、現行の水質基準の26項目を46項目に拡充、強化するというものでございまして、またもう一つには、おいしい水などのより質の高い水道水の目標値、これを設定をするということでございまして、快適水質項目、13項目と、それと将来的な水道水の安全性を期するための、全国的に監視できるような指針値、これは監視項目ということで26項目が設定されると。こういったことで、今後水道水はより安全な水が確保されるのではなかろうか、このように思っております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） はい、わかりました。

この水道計画は、17市町村が対象となっているわけですから、館山だけどうのこうのということにはならないかと思うのですけれども、機会がありましたら、こういった八日市場ですとか、茂原ですとか、こういった意見もあるというふうにも聞いております。そういった突き合わせをしながら、また十分要望なり、討議なりしていったほしいというふうをお願いをしておきます。

時間がありませんが、最後の教員の問題なのですけれども、教育長さんの御意見というのは、ちょっと聞けなかったわけなのですけれども、いつもそ

うなのですけれども、大体指導どおりにやっているということなのでも、私は現場でこういう人がいるのですよということを言っているわけですから、指導どおりっておっしゃるのは、立場上わかるのですけれども、何とかこれを改善をしていってほしいのです。

実は、この代替教員が少ない、少ないって言われているのですけれども、何で少ないのかなと思いましたので、私独自にちょっと調査させていただいたのですけれども、時給ですか、非常に低いという話も聞きました。あと身分保障、そういったことがちゃんとされていないのではないかなというのが1つ出てきまして、その辺のケアも含めて徐々にケアをきちんとされれば、今後は改善されていく問題ではないかなというふうに、全部が改善するとは言いません。ほかにも問題があるようですので、その辺は今後あれですけれども、そういったこともまたお話し合いになってもらってほしいというふうをお願いをしておきたいと思います。

あと、転任に際しての希望なのでも、県教委では十分配慮するよという指導でございます。実際に私の聞きました中で、安房郡ですけれども、7%しかいなかったということなので、その辺を十分お考えになって進めていただきたいというふうに思います。

終わります。

◎副議長（川名正二君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、17番議員鈴木忠夫君。御登壇願います。

（17番議員鈴木忠夫君登壇）

◎17番（鈴木忠夫君） さきに通告いたしました2点について御質問をいたしたいと思います。

まず第1点は、館山駅東西通路の早期実現と橋上駅舎化についてでございますが、私は一昨年度9月定例議会における行政一般通告質問の中で、地震等による津波災害の避難上の観点から、東西歩道橋の早期実現を要望し、また昭和48年3月以来、館山駅舎建設期成促進協議会の手で進められた千葉鉄道管理局、国鉄首都圏本部等への陳情活動を続けた経緯、その後昭和55年12月に設立された館山駅東西通路建設促進協議会が、市民2万8,874名の署名

をもって、昭和56年6月定例議会に際して、先輩議員らの紹介で館山駅東西通路早期建設に関する請願書が提出され、採択された経緯などを申し上げ、海の館山のイメージアップ、観光客、海水浴客を初め、通勤、通学者の利便、駅前広場の交通緩和など、多くの問題を解決のために質問し、あわせて市当局の積極的な取り組みを要望し、市長さんの御理解と御熱意ある御答弁をいただいたわけでございます。

その後、館山駅西口地区土地区画整理事業につきましては、今年度には道路の築造工事、西口交通広場予定地の一部沼地埋め立てが着々と進められ、地権者の御協力により、建物移転も15棟にも及び、今年度末までには26棟の多きにわたると伺っております。これもひとえに、地権者の皆さん方のまちづくりに対する深い御理解と、積極的な御協力のたまものであらうと存じますが、南欧風と言われるオレンジ系のかわらと白い外壁が、その数も多く見受けられるようになりました。私も市民の1人として、事業の完成を待ちわびながら、海洋性リゾートタウンを目指す当市の西の表玄関口の完成が、今後の当市の発展に寄与するところが大なることを思うとき、喜びにたえないものがあります。

そこで、この区画整理事業と並行して、当然の問題として考えていかなければならない橋上駅舎化の実現が、これまで以上に急務となってまいりました。すなわち、区画整理事業の進捗に伴い、西口の交通広場が供用できる時点において、東口と西口が橋上駅舎によって結ばなければ、俗に言う仏つくて魂入れずのそしりを免れないと存じます。昨年は、6月定例議会におきまして、館山駅周辺整備特別委員会議員の紹介による館山駅橋上駅舎建設に関する請願書が採択され、さらに10月には、館山市町内会連合協議会及び館山駅西口地区まちづくり協議会の連名により、2万7,422名の署名を添えて、館山駅橋上駅舎建設に関する陳情書が提出されたと伺っております。市当局におかれましては、これらの請願、陳情を踏まえ、今後どのように進めていくのか、その対応につきましては、市民の大きな関心事となっているところでございます。言うまでもなく、これら駅舎建設等には多額の建設費を要するものであり、市長としても苦慮されているものと推察するところであ

ります。

そこで、これらに関連いたしましてお伺いをいたします。まず第1点として、東西歩道橋を完成させ、これを利用して橋上駅舎の実現に努力すると伺っておりますが、これら一連の事業に対して、現時点ではその建設費はどのくらいになるのか。

第2点として、橋上駅舎として完成し、利用できる時期としては、いつを目標にしているのか。

第3点として、この重大な問題の解決に向けて、話し合う協議会等の設立を考えている旨を市長さんから伺っておりますが、協議会等の設立の時期としては、いつごろを考えて進めているのか。以上3点についてお伺いをいたします。

次に、通告申し上げました第2点として、館山火葬場の改築予定についてをお尋ねいたします。私たちは、日々変わり続けるこの世に生を受けて、それぞれの立場であすを夢見ながら働き続けて、平和とお互いの幸せを求めて毎日を送っております。そうした私たちには、幸か不幸か、好むと好まざるによらず、あるいは突然に死を迎えあるいは死に近づいていく運命にあります。私は、親しい知人を失い、その家族とともに悲しみを身にしみながら、火葬場に重い足を運ぶことも少なくはありません。こうしたときいつも感ずるのは、館山火葬場の老朽した施設であります。人生の最後の知人や肉親との別れの場所としては余りにもお粗末な姿であり、冷え冷えとした待合室は、遺族にとって一層の哀れさを感じさせます。もし現在の館山火葬場が館山市営であれば、とうに市民の声が届いて、新装されているものとするのは、ひとり私ばかりでしょうか。できれば、長狭か千倉の施設を利用したい気持ちになります。しかし、家族としてお見送りくださる方々の利便などを考えますれば、最寄りの施設を選ぶのが通例となっております。火葬場の管理運営が安房郡広域市町村圏事務組合の手にあることは、だれもが承知しておるところでございます。それだけ、当議会においても取り上げられなかったままに、今日まで過ぎてきたのではないのでしょうか。館山火葬場は、同市のほか、鋸南町、富山町、富浦町、三芳村の5市町村の住民が利用しております。

幸いにも、庄司市長さんには安房郡市広域市町村圏事務組合の理事長の要職にあり、常に安房郡市の首長のリーダー的な立場にあり、関係4町村長さんらに諮り、大規模な改築または新築することもさほどに困難なこととは思えません。もちろん、広域圏にはその事情があり、山積みする多くの問題があるところは、広域圏議会に籍を置く先輩議員からも聞くところではありますが、あえて当議会に取り上げて、次の3点についてお尋ねをいたします。

第1点といたしまして、火葬場の建物の建築経過年数と老朽度、さらには県下施設との比較についてお尋ねをいたします。また、長狭火葬場、千倉火葬場との比較はどうか。

第2点といたしまして、施設の性質上、遺族の希望どおりの日には火葬ができず、翌日に火葬を許可している件数は全体の何％に当たるか。また、人戸に比べて炉の数が適切かどうか。

第3点といたしまして、改築等の計画はあるのかどうか。また、改築の見通しはどうかもお尋ねいたします。

以上、橋上駅と火葬場の2点についてお尋ねをさせていただきましたが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎副議長（川名正二君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、館山駅東西通路の早期実現と橋上駅舎化についての御質問でございますが、館山駅東西の一体化につきましては、西口地区土地区画整理事業の進捗に合わせ、海洋性リゾートタウンの館山にふさわしいこの表玄関にふさわしい利便性に富んだ施設の実現に努力してまいりたいと考えております。仮に橋上駅舎とした場合、その建設費はとの御質問でございますが、駅舎の施設内容、規模等の詳細設計が実施されておりませんので、今この段階で確たる金額は出ておりません。なお、その整備手法等を協議する組織の結成については、平成5年度考えております。

次に、大きな第2、館山火葬場の改築についてでございますが、館山火葬場は昭和47年に建設されまして、建築後20年以上経過しておりますが、炉数

3基、年間稼働日数約 300日、年間使用件数約 1,000件となっております。使用者の希望が午前中に集中する傾向にございますが、ほぼ使用者の希望時刻に合わせることができると伺っております。したがって、現状においては、その機能を発揮している状態でございます、附帯設備等につきましても年次的な整備に努めているところでございます。

なお、現在のところ改築計画はございませんが、今後とも内外装、機能等施設設備の充実を要望してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） ただいま市長さんから御答弁をいただきましたが、ありがとうございます。大体の基本的なことはわかったわけでございますが、さらに数点にわたりお教えお願いできれば幸いと存じます。

まず、第1点目でございますが、ただいま市長さんの御答弁によりまして、海洋性リゾートタウンの館山の表玄関にふさわしい利便性に富んだ施設の実現に努力してまいりたいとの御答弁をいただいたところでございますが、その利便性に富んだ施設が橋上駅舎であるのか、自由通路であるのかの表現がございませんでしたので、いま一度その点について御答弁をいただきたいと存じます。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 答えいたします。

まず、自由通路、橋上駅舎それぞれの問題点がございます。まず初めに、自由通路については、工事費が非常に安いということ。それから、西口の区画整理事業の完成に合わせて実施できるという利点がございますけれども、肝心のJRのこの辺にメリットがございません。そんな関係から、JRが乗り気でないということ。さらに、事によると足場用地についても取得をしなければならぬのではないかと、あるいは上り方面の乗降客が非常に不便という、そういったことがございます。逆に橋上駅舎になりますと、御存じのとおり膨大な事業費がかかるということが最大のものです。このような問題があるので、今後ともさらに検討しなければならないと思ってい

ます。また、先ほどの市長の答弁のとおり、この問題を解決するに当たりまして、何とかして設立に向けての組織をつくらねばならないかと考えております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） ただいまの御答弁によりますと、どのような施設が最も適切なものか、今後とも検討していきたいとのことでしたが、それは仮に今の時点で、橋上駅舎建設の工事にするとしますと、先ほど私が若干申し述べたことを含めて、いろいろな困難な問題があるということを踏まえての御答弁ではないかと存じます。橋上駅舎の建設となりますと、地方財政再建促進特別措置法の問題があるやに伺っております。すなわち、駅舎建設にかかわる費用を市が支出してはならないというものだそうですが、その点についてどうなのか。そのような問題があるとして、今後どのように対応していくのか、お考えがあるか伺いたします。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

地方財政建設促進特別措置法及びその同法にかかわる自治省の通達によりまして、市は東日本旅客鉄道に対し、寄附金等を支出してはならないということにされております。しかしながら、この同法にやむを得ないと認められる、政令で定める場合における、国または公団等の当該地方公共団体との協議に基づいて支出する寄附金等で、あらかじめ自治大臣の承認を得たものについては、この限りではないとただし書きがございます。したがって、橋上駅舎の建設ということであれば、今後この規制等を踏まえまして、関係機関との協議をしていくことも検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 私は、この問題につきましては、県内にも同じような問題を抱えながら建設実現をした駅舎があるのではないかと存じます。それらについて、市当局に調査したことはありますか。もし市当局の

調査してあるとするならば、その駅名と地在法の問題が生じた経緯を、ごく簡単に結構ですので、教えていただきたいと思います。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

当市の状況とは、それぞれ皆違うとは思いますが、自治大臣の承認を得て現在建設中の駅舎は、我孫子市の布佐駅というのでしょうか、その駅であると聞いております。布佐駅については、大手不動産会社からの駅舎建設のための寄附金を市の会計の中に入れたために、いざ駅舎の建設費用を支出する段階で、自治省との協議が必要となったわけでございます。そして、その協議後、自治大臣の承認を得て、駅舎の建設をしていくものであるというふうに伺っております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 参考のためにお尋ねします。

ただいま申し上げた、布佐駅の建設費と大手不動産からの受け入れた寄附があったということですが、もしわかったら、簡単に結構でございますので、教えていただきたいと思います。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 布佐駅の建設費でございますけれども、これは通路部分の建設費でございますけれども、内容は精査しておるわけでございませぬけれども、15億円と聞いております。また、不動産会社からの寄附金は8億と伺っております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 同じような問題を抱えながら、駅舎建設に至ったところもあるわけでございます。今後、せっきくの調査をされた事例もあるわけでございますので、それらを十分に参考として、さらに検討されていただきますようお願いをしたいと存じます。

橋上駅舎等の建設につきましては、多額の資金が必要であるとのことでご

ざいます。したがって、その建設に市費を支出するということになりますと、財政規模の大きくない当市にとっては、大きな負担になることは間違いございません。また、市費だけで建設費を賄うことも困難であろうと存じます。そこで、少しでも何か国、県の補助制度を活用できればよいのではないかと考えるところでございますが、そのような観点から、今後補助制度の活用を十分検討していくことが必要であろうかと存じます。伺うところによりますと、通路部分につきましては、特定交通安全施設等整備事業という事業によります補助金の交付が、受けられるのではないかとの話もあるようでございますが、そこでお伺いしたいと存じますが、何かそのような補助制度の活用が考えられるのかどうか、その見通しはどうかをお伺いしたいと存じます。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） その前に、ちょっと訂正がございます。先ほどの布佐駅の関係でございますけれども、私通路と申したのですけれども、通路と駅舎との合計が15億ということでございますので、訂正させていただきます。

回答いたします。補助制度活用のためには、それぞれの補助制度の適用のための要件があります。その要件を満たさなければならないということでございます。館山駅の自由通路の場合には、補助制度を適用させようとするためには、少なくとも今行っております西口区画整理事業の中の西口の交通広場の供用が必要であります。そんな関係で、今西口の交通広場のない現段階では不可能というふうになっております。そのように考えております。西口広場の供用時期に合わせて、当該補助制度の適用ができるように今後も検討したい。また、その他の補助制度についても、これから調査研究をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 最近、館山市周辺の自由通路を建設したところといたしまして、鴨川駅があることは皆さんよく御存じのことと存じます。そ

こで、お伺いしたいと存じますが、鴨川駅の自由通路の建設時期と建設費を
教えていただきたいと存じます。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 鴨川駅の自由通路の建設時期でございますけれども、昭和63年の4月、建設費は1億 8,200万円余と伺っております。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 鴨川市は、鴨川駅の自由通路を建設する際に、市費のほかに補助金を使ったと伺っていますが、その辺のところはどうか教えていただきたいと思います。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） JR鴨川駅の自由通路については、建設省の道路局所管の地方道路整備臨時交付金という制度がございます。これを受けたと伺っております。

以上です。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 整備手法等を協議する組織ということにつきましてお伺いしたいと思います。先ほど御答弁がありましたように、平成5年度中に設立を図っているということでございますが、私は区画整理事業の完成と橋上駅舎の完成を整合させることになるならば、少しでも早くその組織の設立を図らなければ、間に合わなくなるのではないかと、今から懸念いたしておるところでございます。その組織を設立した上で、橋上駅舎化に当たり、もし問題点があるとするならば、その中の十分な話し合いの中で、共通の認識を持ち、その共通認識のもとに解決策を探って、方針を定めていかなければならないと存じます。そのような観点から、その組織は早急につくる必要があると存じます。ただいま私が申し上げましたが、その組織といいますのは、今後のいろいろの問題について話し合う非常に重要なものでございますので、でき得るだけ早期にその設立を考えていただきますようお願いいたします。

それから、改めてお尋ねいたします。西口の区画整理事業は、完成までどのくらいの事業予算か、概略わかったら教えていただきたいと思います。

◎副議長（川名正二君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 雑駁な本当の概略でございます。まだ数年先がでございますので、細かい回答はできませんですけれども、とりあえず現在のところ20億 3,500万ということでございます。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 20億 3,700万余円と申しますと、予算の大きな当市にとっては、市の単独事業としては非常に大きな、画期的な事業であろうかと思えます。したがって、失敗は許されないとも言えます。かねてより、鴨川市では東西通路は失敗だったと聞いたことがあります。それが事実かどうかわかりませんが、一昨日の新聞で橋上駅舎建設に向かって協議会を発足させたというような記事があったそうでございます。私も、いろいろこの問題について勉強させていただいた現在、ようやくわかりかけてまいりました。今までの答弁の中で、大体のことはわかりましたが、再質問の第1問でございます。橋上駅舎、自由通路それぞれの抱えている問題点がある。それらを踏まえ、海洋性リゾートタウンの玄関口としてどのような施設が最も適切なものか、今後ともさらに検討していきたいとのことでございますが、私が先ほど申し上げた鴨川市の例がございすように、どのような施設が最も適切なものと検討した場合、それぞれの抱えている問題点があろうかと思えますが、橋上駅舎に関しまして1点だけ市長さんにお伺いいたします。事業の進捗に合わせて御答弁をいただきましたが、完成の時期は平成8年度を目指して取り組むお考えであるかどうか、市長さんの御答弁をお願いいたします。

◎副議長（川名正二君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） そういうことを含めまして、これからがっちりした組織を作成し、検討してまいりたいと、こう考えております。

◎副議長（川名正二君） 鈴木忠夫君。

◎17番（鈴木忠夫君） 平成8年と申しますと、もう目の前に来ておりま

す。もう既に、これはもう直ちにでもそのようなことに進んでいかなければ、間に合わないのではないかと私は考えるわけでございますので、よろしくひとつ市長さんの意気込みをお願いを申し上げる次第でございます。

それから次に、火葬場に関してでございますが、改築等の計画はないがというお話でございますが、やはり建物が非常に老朽化しているということでございますので、内外装、機能充実を要望していくことの御答弁もいただきましたが、待合室も老朽化しており、建物の位置もせめて太陽の当たる位置に建てかえを要望していただくことも、最近ではまた駐車場につきましては、大型バスも使用するケースもふえております。駐車場が狭い上に高低差があるため、利用しにくい状況もありますので、今後利用者の利便等を御検討いただいて、改修等の実現に向けてお骨折りを願うことを要望いたしまして、質問を終わります。

◎副議長（川名正二君） 以上で17番議員鈴木忠夫君の質問を終わります。

次、4番議員斉藤 実君。御登壇願います。

（4番議員斉藤 実君登壇）

◎4番（斉藤 実君） 3月議会の通告質問、いよいよ私しんがりでございます、私が最後でございます。きのうから本日にかけて、非常に緊張したところの真剣な会議で、大変皆様方、御当局の方々、会場の皆様方、お疲れとは存じますが、いましばらくお願いをいたしたいと存じます。

さきに通告いたしました3点について、庄司市長さんに御質問申し上げます。まず第1点、私の地元NMBセミコンダクターの現況をどのような見解をされておるか。第2点目、現在館山市民が、そしてその関係者が非常に熱意を持って早期実現を期している、福祉総合会館の建設問題であります。第3点目は、我々館山市民の老若男女いや館山市民ばかりではなく、南房総の人たちすべて早期実現、完成を望んでおりますところの、安房医師会病院の拡充と内容の充実の問題でございます。以上3点について質問申し上げます。

まず第1点は、私の地元山本に1984年に資本金69億 2,200万をもって、従業員数実に800名に及ぶところの大きな会社でございます。産業の問題あるいはまた雇用の問題、いろいろな問題に我が館山市には大きな影響力をもた

らす会社でございます。ところが、最近新聞あるいはいろいろな報道によりますと、これもまた世界的な大きな会社、新日鉄に買収合併というような記事が出ておりました。我々館山市民は非常に驚き、また関心を持ったわけでございます。従業員数約 800 といえますと、館山市雇用問題は大変な問題でございます。したがって、現在のこの状況を、行政のトップにあるところの庄司市長さん、いかなる御見解を持っておられるか、第 1 点まずお伺いしたいと思っています。

ちなみに申し上げますが、4～5 日前に私篠田社長さんと 1 対 1 と言えば大変失礼でございますが、10 分ないし 15 分間ぐらいお話し合いをする機会を得ました。篠田社長さんは、800 名のトップで大変に指導力もあり、経営能力も非常に立派な方であるとお見受けいたしました。人格、識見ともに立派な方でございます。篠田社長さんのおっしゃるには、今度は新日鉄は膨大な予算、資本力、そのようなことを踏まえて、現在よりさらに 2～3 のいわゆる半導体だけではなくて、もっとほかの部門も窓口を広げて大きく発展をするのだと、このような話をお伺いいたしました。ちなみに申し上げます。

さて、第 2 点目でございます。我々市民が非常に早期実現を期しております福祉総合センター、この問題につきましては、先輩議員が何回か質問されてきました。先年 9 月には、先輩の辻田議員も発言されております。市長さんのお答えは、前向きに真剣に考えるという御答弁をいただいたように記憶しております。しかしながら、昨年度、平成 4 年度の予算にも、平成 5 年度の 155 億数千万に上る予算の中にも含まれておりません。我々非常に落胆させる以外にないわけでございます。我が国の人口も、年々高齢化時代を迎えまして、全国全人口の 4 割は 65 歳以上の老人というデータもあるようでございます。国におきましては、福祉国家日本ということで、10 年、20 年前から着々と福祉制度には力を入れてきました。あるいは、場合によると国の制度は行き過ぎではないかというほど、ある面では発展してまいりました。翻って、我が館山市の人口は約 5 万 5,000、年々減少の一途をたどっておりますが、65 歳以上のいわゆる老人の域と言われる方々、やはり 20% 以上を超えたというデータ、これを従えております。福祉制度、この充実は一日も早

くしなければならない我が館山市でございます。我が館山市は、文化福祉都市の宣言の町でございます。20%を超えとのことのお年寄り、現在の社会情勢は、核家族の風潮になっております。若い人たちが学校を卒業する。都会へ出ていく。また、適齢期の人たちが結婚をする。別居を構える。老夫婦は2人で住んでおる。不幸にして伴侶を失った人は、年寄りが1人で住んでいる。このような老人の生きがいのある生活を支えるためにも、あるいはまた、先ほどから質問されておりましたリハビリの問題、不幸にして交通事故に遭われ、でも不幸中の幸い、お医者さんに治していただいて、病院に通うほどではないかと、そのような方がリハビリをする、数多くおるはずでございます。このような気の毒な方々を面倒を見てくださっていらっしゃる、いわゆるボランティア活動に従事しておる方々、館山市に約120名いらっしゃいます。

あるいはまた、館山市に福祉協議会がございます。先年の11月でございますか、福祉協議会大会がございました。そのときにも、NHKの解説委員村田幸子さんが来て、大変有益なお話ししてくださいました。福祉協議会、ぐんぐんいろんな行事を、いろんな仕事をしてくださっております。しかしながら、これらの方々の拠点となるべきこの会館がないということは、実に我々市民をして嘆かわしめるゆえんではないでしょうか。ボランティアの活動の方々あるいは福祉協議会の方々、事務所、これは一体どこにあるかと思ひまして、私はある関係者にお聞きしました。それは、市民センターの中にあります。実際行ってみました。市民センターの玄関を真っすぐ入って左側に、そこに12～13人の事務員さんがおられました。ここが福祉協議会の事務所ですかと聞くと、そうですよと。これでは、皆さん満足しない、困りますね、回答はまた後にいたしますが、あるいはボランティアの方々の拠点となるべき部屋がない。あることはあるようですが、いわゆる間借り状態の状態。このようなことで、果たしてよろしいかどうか、痛感するものでございます。私は、一刻も早くこの問題すべて解決するために、福祉総合会館の建設を希望いたします。

したがって、この問題について市長さんは、まず第2点として御質問申し上げます。いつお建てになるのか、どのような計画になっておられるのか。

会館建設ということになりますと、大変な予算がかかります。そのためには、やはり調査研究が必要であろうかと思ひます。その早急な措置を即お願いいたしたい。本年度予算 150億には入っておりません。したがって、早速これを実現するためにも、直ちに追加予算を編成されて当議会に提示していただきたい。議会に同意を求めていただきたいと思ひます。この辺いかがでございましょうか。

我々議員は、いわゆる行政視察ということで、日本中あらゆるところの先進地を視察に参ります。2時間、3時間、我々の目的のことに對して、案内して下さった向こうの市役所の係の方と真剣な討議をしまひります。福祉会館のところに行けば、この土地はどうして取得したか、予算はどうなったか、あるいはまた、この中にいろいろある数々の部屋の中、これに對する国の予算はどのくらいあつたのか、県の予算はどのくらいあつたのか、真剣に質疑応答いたしまして、その結果を帰つてきてから報告書を提出しております。これらの先進地のいいところを即まねをして、あるいはまねというか、即実行をしなければ、我々せっかく市の予算をいただいて、行政視察に行ったかいがありません。したがって、これらもよく我々の報告書をごらんいただいて、ひとつ実現に向かつて前進していただきたい、この辺いかがお考へになつてゐるか、第2点御質問申し上げます。

さて、第3点目でございます。先ほど申し上げましたとおり、館山市民だけではなく、南房総の方々すべてが一日、一刻も早いこの実現を希望しております。私も各所回りまして、市民皆さん方、町民皆さん方といろいろと話し合ひをいたします。一刻も早くこの問題を何とかしてくれと、そう話をしてゐるうちに、ついにピーポーピーポー救急車が東の鴨川方面にぶっ飛んで行く、あるいはそこでは足りないと判断した場合か、北の方の木更津、君津方面へ救急車は飛んで行く。それは、時間は40分から45分かかります、東の方。北の方は、実に1時間20～30分かかります。緊急車が40分かかって救急の患者を運んでも、しばしば間に合わない場合があると聞いております。北の方はなおさらでございます。しかしながら、この問題につきましては、庄司市長さんに敬意を表したいと思ひます。

一昨年9月、私は初めてこの壇上に登壇をいたしましたとき、この問題を中心にして市長さんに御質問申し上げました。医療行政についてといった意味合いで、医療センター拡充の問題でございます。医療法によって、現在の南房総では、総合病院はちょっと不可能のようでございます。したがって、現在としては医師会病院の拡充と内容の充実以外にないと私は考える。また、専門家あたりの御意見もそうであります。

9月議会終わりました、2月の10日まで、医師会病院の内容すべてそのような医療行政を研究してまいりました。昭和39年6月、白幡静夫先生の初代理事長ということで、医師会病院が設立されました。当時、館山市から1,000万円いろいろな形で援助をしております。鴨川町か、安房郡、鴨川町を先頭にしたこの安房郡から、恐らく広域市町村圏事務組合であろうと私は判断いたします。ここから800万円、県から2,500万円出ております。今の医師会病院でございます。しかし、時代の変遷によって、既にもう大きく議題が違うように考えております。したがって、この問題早速解決をいたすべく御努力いただきたい。

市長さんは、去年の12月8日に、安房郡市地域医療協議会の会長さんを現在しておられますが、関係者と、県に陳情に行っておられます。いろいろお骨折りしていただきました。私もこの問題解決につきまして、福祉協議会会長の本間明さんのところへお伺いをいたしまして話をしました。そのときに、私もそれ以上に考えておると、熱心にいろいろ話し合いました。では、医師会長山田先生はどう考えておられるか。では、今から行って聞こうということで、医師会長山田先生のところへお伺いいたしました。山田先生もそれ以上に会長として考えておると。それでは、3人庄司市長さんのところへお伺いしようということで、市長室に市長さんをお訪ねして、そこで4者会談をやったわけでございます。それで、市長さんは市長職で忙しい、本間会長、山田会長、私と3人で、安房郡市の市町村長さんがいかにお考えになっておるか、3人で回ろうということで、2月の14日に第1回、鋸南町の富永町長、三芳村長安藤さん、18日に白浜町長さん、そしてお隣の遠藤町長さん、3月の14日、和田の町長さん、ちょっと記憶がここらは全然私ないものでござい

ますが、たしか3月14日だと思います。とにかく5月まで安房郡市の市町村長さんと全部お会いいたしました、3人で、本間会長、山田会長、私と。そこで、異口同音にそういうことなら安房医師会病院の充実問題になる。我が町、我が市では、全力をもって応援いたしますというお話を、まだこの耳にこびりついております。そこで、6月の何日か、安房地域保健医療協議会、これは山田先生が会長でございます。この会議にこれを提案していただきまして、それでワーキンググループができて、12名のワーキンググループができたわけでございます。医師会の方々、保健所長さん、そして関係医師、4つの市町から助役さんが4名出ております。それで、市民代表の方も出ております。このようなことで、ワーキンググループ3回会議をおやりになる。昨年の9月21日、5時半から最後の3回目の会議が行われている、教育センターで。その結果、市長さんも県へ陳情に行かれたわけでございます。このようなことで、全市民が、医師会病院の問題につきまして、非常な関心を持っており、一日も早い実現を期待いたしております。

そこで、質問いたしますが、次の段階でございます。市長さんは、県に陳情されました。ここまでは、非常に市長さんも苦勞され、努力されたわけでございます。次の手でございます。これは、やはり専門家を網羅したところの協議会であろうかと思えます。幸いにして、先ほど申し上げましたとおり、市長さんは安房郡市地域医療協議会の会長でございます。したがって、どうぞよろしくお願いをいたします。

◎副議長（川名正二君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの斉藤議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、NMBセミコンダクターの現況についての御質問でございますが、新日本製鉄株式会社とNMBセミコンダクターの親会社でございますミネベア株式会社との間におきまして、株式会社NMBセミコンダクターの経営権を新日本製鉄株式会社が譲り受けると、このことについての基本的な合意がなされたと伺っております。これからは法的な手続を進め、この3月中を目途に経営権の譲渡を行い、社名も日鉄セミコンダクター株式会社と変

更し、従来の経営の継続性を十分に尊重するとともに、責任ある事業推進に努めてまいりたいとの報告を受けております。

次に、大きな第2、福祉総合会館建設についての御質問でございます。今回のこの本会議におきましても、福祉問題、デイサービス、集団リハビリ等々につきまして、福祉問題一步一步推進しておりますが、御意見の福祉総合会館、これにつきましては、地域福祉センターというのは2つございまして、基本型と総合型がございます。基本型の施設につきましては、高齢者や障害者と地域住民の交流の場として、また社会福祉協議会を中心とする民間福祉団体の活動拠点となるもので、県の補助対象でございます。総合型の施設は、基本型の事業に加えてデイサービス、研修、相談業務が必須事業でございまして、国庫補助対象となるものでございます。今後市民のニーズをとらえまして、市としてどのような事業を実施すべきか、またそのための施設はどのようなものにすべきか、総合的な検討が必要な段階と考えております。そのため、根幹事業実施計画のとおり、平成6、7年度におきまして、調査検討を実施する予定でございます。

次に、大きな第3、安房医師会病院の充実についての御質問でございますが、昨日もこの問題についてお答えしたとおり、館山地域の医療体制整備の必要につきましては、千葉県により策定されました、安房地域保健医療計画によりますと、今後当地域に必要な施設といたしまして、第1に診療所や病院がそれぞれの機能を発揮したり、安房医師会病院の積極的な活動を図るなど、一層の機能分担をしていくというものでございます。そして、第2に、特に館山地域では、高度医療及び救急医療に対する住民の熱望にこたえる必要があるということでございます。この高度医療等医療施設整備の推進には、多くの課題がありますが、今後とも県当局への要望活動とともに安房郡市地域医療協議会を中心に、安房医師会及び関係市町村と、広域的観点に立ちまして検討を進めてまいります。

以上でございます。

◎副議長（川名正二君） 齊藤 実君。

◎4番（齊藤 実君） 福祉総合会館の問題でございしますが、市長さんただ

いまの御答弁で6年、7年に調査を始めると。これは、調査研究のための予算措置であるかどうか。あるいはまた、協議会やいろいろ研究が必要であろうと思いますが、具体的にいま一步進んだところの御説明をいただきたいと思います。

◎副議長（川名正二君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいま市長がお答えしましたとおり、根幹事業実施計画平成6、7年度におきまして調査検討するということでございます。現在のところそういうことでございます。

◎副議長（川名正二君） 斉藤 実君。

◎4番（斉藤 実君） この問題もう一度市長さんに要望をいたします。6年、7年では、すべて皆さん方遅いという声が高まっております。したがって、先ほども申し上げましたとおり、本年度追加予算でその調査研究費を上げていただいて、6年、7年から既に建設を始める。基本型地域会館であろう、あるいは総合型か、専門家の方々にこれを館山市の実際に即応したところの会館を研究していただいて、6年ごろからは既に地鎮祭も始まると、このような体制へ持って行っていただきたいと思います。強く要望いたします。

医師会病院問題でございますが、今まで市長さんいろいろと一生懸命おやりになられて、関係者ともに県へ陳情に行かれました。たまたま、県にいたしましても、知事選に突入いたしております。沼田知事も、恐らく再選必至であろうと私考えております。したがって、この選挙戦の忙しい中で館山の要望がどこまで把握されておるか。日ならずして当選の暁、館山市でこういう要望があるから、館山市のために、あるいは安房郡市という表現の方がよからうと思いますが、こういうことをしなければいけないと県の方で考えてくれた場合で、館山市としてもあるいは一緒に行かれた広域市町村圏、安房支庁長さんを初め大勢行かれたというお話をお伺いいたしておりますが、こちらでも陳情して、今度は県の方でこうするから、こう回答いただいたときに、それではもう既に遅いわけでございます。したがって、この問題は市民の1人1人が真剣に考えておる問題でございます。何をおいても、この問題が最優先であろうかと存じます。

医師会病院、先ほど申し上げましたとおり、不幸にして交通事故が起こった。例えば頭蓋骨骨折、館山のお医者さんでは機械、器具がない。先ほど申し上げましたとおり、40分かかって東の方へ救急車がぶっ飛ぶ。果たして、それに付き添っておるところの両親か、あるいはおじいさんか、おばあさんか、恐らくどんな思いでありましょうか。もしかわいいお孫さんが不幸にしてそうなった場合に、おじいさんは恐らく神に祈らずにはいられないと思います。私の命にかえてこの子を助けてくださいと。40分かかったのでは、その祈りも保証されません。したがって、銭、金ではないというように市民の皆さんは考えております。そのためのことだったら、増税もまたやむなしと私には何人も答えてくれました。何よりも命の問題、金銀財宝がいかにあろうとも、亡くなってしまうて人命が終わったのでは、もはや何のあれもありません。したがって、医師会病院、医療センターの内容の充実の問題は、何よりも先急ぐ問題でございます。医療器具も近ごろは、非常に進んでまいりまして、ざっと私何人かの専門家に聞いたところでは、1つの器具が8,000万から1億数千万もするというところでございます。また、その機械を動かせるお医者さんがいなければなりません。そのようなことで、膨大な予算がかかりますが、何といたしまして、これは市民の最大の熱望でございますので、早速先ほど申し上げましたとおり、次の段階、今までは市長さん一生懸命やられて、ワーキンググループもでき、県へも陳情され、ここまでは非常に順調に来たわけでございますが、今後これが停滞しておったのでは、今までの苦労も水の泡でございます。次の第1段、早急をお願いしたいと存じます。どのような方策を持っておられるのか、一言市長さんにお伺いできればと。

◎副議長（川名正二君） 市長。

◎市長（庄司 厚君） 御意見のとおりでございまして、停滞することなく積極的に進めてまいりたいと思いますが、特に医師会病院でございますから、医師会との緊密な連携をとって、着実に一步ずつ進めてまいりたいと、こう考えております。

◎副議長（川名正二君） 斉藤 実君。

◎4番(斉藤 実君) わかりました。今までの熱意と同じように関係者、医師会の皆様、保健所長さん、いろいろ市長さん接触されて、努力されてくださいました。今後ともこの問題につきましては、一層のお骨折りをお願いいたしまして、質問終わります。

◎副議長(川名正二君) 以上で4番議員斉藤 実君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午前11時53分

◎副議長(川名正二君) 本日の会議はこれにて散会いたします。

なお、明12日から14日まで議案調査のため休会、次会は3月15日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際、申し上げます。平成5年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月15日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

